

# 市議団速報

e-mail:info@jcp-niigata-shigidan.com NO.69

2013年11月17日

日本共産党

新潟市議会議員団

電話 025-226-3450

FAX 025-223-7748



藤沢市役所にて

新潟市政の中でいま最も市民の関心を呼んでいるBRT問題。  
12月議会に連節バス購入の契約議案が提出されるという状況の中、議員団では2班に分かれて現在連節バスを導入している自治体

## BRT視察団報告記

### 厚木市・藤沢市・町田市の連節バス導入の現状を見てきました

を視察し、実態について調査をしてきました。

10月29～30日に第1班の、小山・野本・風間の3人で、神奈川県厚木市と藤沢市、東京都町田市を視察、市の担当者から導入の経緯や現状などを聞くとともに、実際に試乗し、必要性について体験してきました。

### 3市とも納得できる理由あり

理由あり

厚木市は、公共交通空白地帯はないが、本厚木駅は、一日14万人が乗降する駅で大変な混雑状況があり、従業者3500人の



厚木アクト

業務ビル「厚木アクト」へのバス利用者が52%もあり、ラッシュ時は乗り溢れて200mもの列ができていました。

藤沢市では市の西北部の交通不便地域に慶応大の交通不便地域に慶応大の校時の対策が必要でした。また、町田市には9000戸もの大規模住宅団地の山崎団地があり、そこへ

の公共交通の確保が課題としてあり、それぞれ、連節バスの運行はその目的達成のためであり、公共交通不便地域に対する新たな支援策を取り入れるなど、市民の声をいかした取り組みになっていました。目的もはっきりしない新潟市の「BRT構想」は中止すべきです。



山崎団地（町田市）にて